

# 少人数制レク充実 多職種連携で発案



人 配 支 介 主 務 職 磯 崎 支 介 支 介 支 介 支 介

コロナ禍において高齢者施設では外出や外部講師によるレクリエーションなどが制限されるなか、東京海上日動ベターライフサービス（東京都世田谷区）が運営するヒルデモアこどもの国（横浜市）では、感染症対策をとりながらホーム内で楽しめるアクティビティを充実させている。

## 入居者も積極的

同社は今年度の経営目標の一つとして、「入居者の介護予防や

「自律支援」を掲げており、ヒルデモアこどもの国では軽度者向けのプログラムを充実させることが課題だった。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出や外部講師を招いた従来



◀園芸を楽しむ入居者

のレクが難しくなったため、スタッフ一丸となりホームで楽しめるアクティビティの企画・運営に取り組むようになったという。ケアスタッフ1名を



◀外食気分を味わえる企画も

アクティビティ担当者とする中で、職員の負担を増やさずに少人数制のアクティビティを充実させることができた。新たな企画として、

外食気分を味わえるイベント「レストラン」を開催した。レストランのような空間を演出した多目的室でスタッフが入居者をおもてなし。入居

者の目の前で調理し、出来立ての料理を提供するという。なかにはおめかしをして「来店」する入居者も。

「同じ食事で空間を変えて、いつもとは違う特別感が出る」と料理長は語る。また、スタッフの特技を生かし、園芸クラブも立ち上がった。入居者の希望を聞きながら季節の野菜を育て、摘み取り、実際に食べる体験の場を提供。

生け花などの好評なアクティビティは定例化することで、スタッフを選ばず運営できる仕組みが構築された。さらに作業療法士・歯科衛生士・言語聴覚士・看護師・事務スタッフなどの多職種連携による介護予防や認知症対策のための「リハ

アク体操」も行っている。

「アクティビティを通じて、多職種連携が強化され、施設全体としては業務改善にもつながった。今後も感染症対策を行いながら、楽しくリハビリができるよう、工夫していきたい」（磯崎圭介 配人）

外出が難しくなったことで、入居者はホームで過ごす時間が増えたが、その分、積極的にアクティビティに参加してくれる入居者も増えた。いつもスタッフに意見をくれるという女性入居者は、「毎日楽しいです。色々なことにチャレンジしたい」と笑顔で語った。